

《全進研 冬のセミナー》

「中教審」が現場に求める教育と

私たちがめざす教育

2016/02/13

今泉 博（全進研世話人）

[1] 「論点整理」を読んでみて

- \* これまでにかつてないほど、「指導法」まで含めて大きく変えようとしている。
- \* 教育現場の実態や困難、子どもや保護者・教職員の願いなどは、ほとんど反映されていない。
- \* 平和や人権、民主主義といった、これからの時代を創っていく上で不可欠な言葉や視点がない。
- \* 現場教職員がこの文書を読んでも、教育実践への希望や活力が生まれてはこないだろう。

[2] 「自ら」を一貫して強調「自己責任」の押しつけ

- \* 「自らの生涯を生き抜く力」「貧困などの目の前にある生活上の困難を乗り越え」など、「自ら」を一貫して強調。
- \* 本来は国や行政がすべきことまで、「自己責任」にしようという考え方が貫かれている。

[3] 学習指導要領をこれまで以上に現場へ徹底する

- \* 改悪された教育基本法や、学校教育法を根拠に、これまで以上に学習指導要領を現場に徹底。
- \* 授業ごとの学習指導案の作成まで要求してきている。
- \* 国が教育の内容や指導法まで介入することは、教師の専門性に対する重大な侵害である

[4] アクティブラーニング

- \* active learning の定義 『質的転換答申』用語集では、決して新しいものではない。ここでは、アクティブラーニングを「能動的・協働的学習」という意味にしておく。
- \* 米国でアクティブラーニングの研究が始まった理由
- \* 教師の専門性が保障されるような状況下であれば、指導法の一つとして積極的な意味を持つ。
- \* 「論点整理」のような方向では、アクティブラーニング表面的な「活動」や「形式」に流れる可能性がある。

[5] 《新しい能力》の育成

- \* 最近学校で身につけられる(身につけるべき)能力として、「学力」以外の用語が使用。
- \* 初等・中等教育から、高等教育にいたるまで《新しい能力》概念が普及したことの背景に、グローバルな知識経済の下での労働力の要請がある
- \* アクティブラーニングは、検索型の知識基盤社会を力強く生きるための『情報・知的リテラシー』という技能・態度(能力)を育てる意義を持つ

[6] 基礎・基本と活用について

- \* 「論点整理」では、「着実な習得の学習が展開されてこそ、主体的・能動的な活用・探究の学習を展開することができる」と述べている。基礎・基本は、とにかく練習・習熟し身につける対象とされている。「教えて考えさせる授業」という考え方が現場にかなり浸透している。
- \* しかし基礎的・基本的なことは、実に深い世界であり、人類の文化が「飛躍」を迫られた歴史が刻まれている。基礎的・基本的なことを深く学んでいけば、「思考力、判断力、表現力その他 の能力をはぐくむ」ことができるのである。基礎・基本と活用を機械的に分離するのは正しくない。
- \* 基礎・基本を、どれだけ深く豊かに学べるようにできるかが、「勉強からの逃走」を真に克服し子どもたちが生き生き学ぶ授業の創造につながる。

[7] 道徳の「教科化」

\*安倍政権は、直接的には滋賀でのいじめ事件（2011年10月）をきっかけにして、教育改革の最重点項目として、道徳の教科化が行われた。

\*道徳の特別教科化の最大のねらいは、「文字通り権力が直接教育内容を直接決定するという仕組みが働くからである。

\*記述式であっても評価がおこなわれることの問題性は大きい。「徳目」の提示と『評価』とが行動評価として結合されるとき、『建前』を演じることを子どもたちが出てこざるを得ない。

\*平和や人権、国民主権や思想・言論・表現の自由など、民主主義的なさまざまな権利が、「項目」から排除されている。ここからも、道徳教育で何をめざしているかが大凡読み取れる。

『道徳性の教育をどう進めるか』（佐貫浩・著 新日本出版社）参照

#### 〔8〕実践を創っていく上で

これまで見てきたように、「論点整理」はさまざまな問題点を含んでいる。これからの実践を創っていく上での手がかりになるものはないのか。

「学校は、今を生きる子供たちにとって、現実の社会との関わりの中で、毎日の生活を築き上げていく場である」「変化する社会の動きを取り込み、世の中と結び付いた授業等を通じて子供たちにこれからの人生を前向きに考えさせることが、主体的な学びの鍵となる」「学習・指導方法について目指すのは、特定の型を普及させることではなく、・・・（中略）・・・具体的な学習プロセスは限りなく存在し得るものであり、教員一人一人が、子供たちの発達段階や発達の特性、子供の学習スタイルの多様性や教育的ニーズと教科等の学習内容、単元の構成や学習の場面等に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、工夫して実践できるようにすることが重要」などというあたりは、役に立ちそうに思われる。

#### 〔9〕最後に

\*職員会議等で「論点整理」について話し合う機会をつくる。子どもや学校の実態や指導上の課題や困難を出し合いこの論議をするかどうかで、実践が大きく変わっていく。

\*中教審教育課程企画特別部会から出された「論点整理」は「戦争法制」を強行した安倍政権の流れとは無縁ではない。学校教育が政治的な道具にされてはならない。自治的な活動を通して、人権や民主主義を学べるようにしていくことが、とりわけ必要になる。

\*子どもの苦悩や悲しみを受けとめ、子どもたちが安心して学び生活できる学級・学校をめざす。

子どもたちの輝きを父母と共有する努力をしていく。

\*「論点整理」では、「社会に開かれた教育課程」の必要性を説き、「新しい教育課程が目指す理念を、学校や教育関係者のみならず、保護者や地域の人々、産業界等を含め広く共有し、子供の成長に社会全体で協働的に関わっていくことが必要である」と記している。それだけに、父母との連携をつくる努力をしないと、一気に「論点整理」の方向で取り組まなければならない危険がある。

\*まず自分が、自分と同じような問題意識の仲間が2～3人できれば、職場は学校は大きく変わりうる。ものごとは、わずかひとつの微視的な点から始まる。それを大事にしたい。